芸術
演奏研究
『オペラ』

【客席からの見え方をプロジェクターで確認しながらオペラを学ぼう!】

プロジェクターに投影された自分たちの演奏の様子

良いところ	課題に感じたところ
レチタティーヴォのところが楽しい演技でよかった。	悲しすぎる気がする
母の嘆いている感じがすごくした。	
ハグがあることで親子感が出ていた。	歌をもっとしっかりと歌いきったらよいと思った
歩をつなぐようお互いの悲しみや苦しみが伝わる	動きを整理する。
妖精中表情がすごく細かく演技されていた。	もう少し顔色を大きく使ったらよいのではと思った。
親子愛が伝わってきた。	後半のセストは悩いのかな?
演技が何をしているかわかる	もう少し前のエリアで2重唱をした方が声が飛ぶ。
最後四人合って終わるところ、母の愛が伝わる	演技がわかりにくかったところがある。
最初の引き離された演出がよかた	急緩ずの場所
最初の遠くからセストが呼ぶところ	セストがどこにおるのか、何をしているのか明確に
コルネリアが椅子を使っているところ	
大住さんの目線、声に感情がある	
岸田さんのセリフがはっきりしているところ	
聞きやすい!	舞台の奥行きを生かす
最後に去っていくとき、2人の歩幅や歩数がちがって母が離れていく感じがしてよかった。	目線をそろえると良くなる
舞台を大きく前の方を使っている。	目が合うタイミングが二人の中でないこと。
初めり日で二人がそろって演技するのが音楽と合っていた	振り方、演技が少ない、親子間の出し方、目線
すれ違ってく会話、椅子の使い方、歌で感情がわかる	小道具、大道具がちょっとなにを表しているのかが
最後かっこいい	よくわからなかった

Google ドキュメントに記載された内容

活用場面

一斉学習
- 教師による教材の提示

個別学習
- 個に応じた学習
- 思考を深める学習
- 表現・制作

協働学習
- 発表や話合い
- 協働での意見整理
- 協働制作

活用した機器等

Chromebook
プロジェクター

活用したアプリ等

Google Classroom
Google ドキュメント
Google Forms

学習のねらい

オペラの2重唱において、客席から見た自分たちの様子を、プロジェクターで投影された映像で確認しながら練習することで、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫できるようになる。

学習の流れ

導入
①オペラの基礎知識、基礎演技について学ぶ。
②全員共通のシーンに取り組む。
③それぞれの演技について、どのように演技をつけ演奏したらよいかを試行錯誤する。

興味や関心を高める

展開
①2人組の班をつくり、2重唱のセッコ・レチタティーヴォからデュエットに取り組む。
②共通のシーンに対して、班ごとに演出を考え、中間発表で実演する。
③他の班の発表を見て、自らの演出をブラッシュアップする。

思考して問い続ける

まとめ
①中間発表後から発表会までの授業では、毎回、全班が順番に発表練習を行う。発表班は、自身の演技・演奏をプロジェクターで確認しながら練習する。発表班以外の班は、発表の良いところや改善点をGoogle ドキュメントに書く。
②発表会で実演する。
③発表会後、プロの同シーンを鑑賞し、表現の可能性について追及する。

振り返って次へつなげる

ここでＩＣＴを活用！

・中間発表後は、Chromebookのカメラ機能を用い、発表練習の様子をプロジェクターで投影した。

・発表練習の様子とその発表に対する教員の助言を動画にし、Google Classroomにアップロードした。

・事前にGoogle ClassroomにGoogle ドキュメントを配信した。発表練習時には、発表班以外の班は、発表の良いところや改善点をGoogle ドキュメントに書かせた。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

・生徒がプロジェクターで映し出される自分の姿を見て、立ち位置を確認して改善する様子が見られた。また、Google Classroomにアップロードされている自班の演技・演奏や教員からの助言の動画を何度も見返すことで、授業ごとに成長が見られた。

・クラスメイトの発表練習に対し、その時感じたことを忘れないよう、リアルタイムでコメントを入力させるようにしたことで、それぞれへの適切なフィードバックに生かすことができた。一方、コメントを書くことに集中しすぎることで、クラスメイトの演奏をじっくりと見る余裕がなくなることもあるため、適宜注意喚起が必要である。